令和４年度第１回高知県農福連携支援調整会議　議事録

１　日時　令和４年６月１日（水）14 時～16 時 05 分
２　場所　オーテピア４階ホール

以下、議事録　※議事部分のみ。一部省略しています。

安芸福祉保健所　公文主幹

どこの会議でも言っていますが、農福連携がやりたくてやったわけではなくて、農福連携という言葉も知らなくて、人に公文さんがやっていることは農福連携なんだよと言われて、それまではただの就労支援だと思っていましたし、様々な生きづらさを抱えた人たちを助けるための一つの手段が就労支援だと思っていたので、それがまさか農福連携という言葉に変わって、農福連携が平成 26 年からコツコツやっていたんですけれど、それがこんなにドカンとなって、高知県のプラットフォームなんかが出来るなんて当時は想像していなかったんですけれど、私がやってきたのは地域での仲間づくりです。いかに関係機関と仲良くなって、それぞれの関係機関の特徴をそれぞれが知ってその特徴を最大限活かせるのが安芸地域でやっている農福連携であったり自殺対策であったりということだと思います。本当に安芸というか僕らが関わっている仲間というのは楽しくて、今日も来ていますけど、ポラリスの山本さんはお酒飲ませていたらなんでも言うことを聞いてくれますし、安芸地域ではないですが、地域活動支援センターの畑中さんとか宗石さんとかもすぐに生きづらい人が出てきたら電話して、「すみませんお仕事体験をお願いしたいんです。」と言ったら畑中さんなんかも「分かりました。じゃあいつからやりますか。」「明日です。」と言ったら、分かりました明日行かせます、となって明日になったら宗石さんが来るみたいな感じですし、農福連携がこんなに大きくなったのは農業振興センターさんであったり JA さん、今日も来ていますが、市川さん、そもそも安芸で最初に組もうと言った、安芸を捨てて高知市に行った小松課長さんにお願いして雇ってもらった今日も来ていますけれど就労サポーターの横山さんとかも明日から農業体験一緒にやってもらいたいと言ったら、「分かった分かった行くき。」といった軽いノリも大事だと思いますし、今日も来てます、いの町の澁谷課長や有澤さんだったりお互いの特徴を利用した連携が出来るんじゃないかということで、2 年前から色んなことで連携してもらって、一緒にご飯食べに行ったり、コロナで飲み会は出来ませんけど、そのうち飲み会が出来ることを楽しみにしながら活動しております。ちょっと前置きが長くなりましたけれど、そうした連携の中で

こういう生きづらい方達が本当に笑顔になって活き活き働けるのが農業の良さなんじゃないかなと思います。真ん中の女性なんかも自殺未遂をした精神疾患を持っている方ですし、その横で立って手を振っている女性はコミュニケーションが今でも全然取れません。ですけれど、農の中のスペシャリストになって、多いときでは20万近く稼ぐ。ナスの袋詰めとかで稼いだりしています。こういう生きづらい方が笑顔になっていくのが農福連携の良さじゃないかなと思います。これは皆さん知っていますので、とばしていきます。ナスが本当に有名なところです。

いつも言っていますが、農福連携の始まりは自殺対策です。高知県は自殺死亡率が高くて、福祉保健所毎に分けた時に安芸がたまたま高知県の中で突出していた。これを下げるために支援機関で連携していこうということで作ったのが、ここから東部地域ネットワーク会議という自殺予防ネットワークです。人が自殺するということは本当に追い込まれた、最後の手段です。そこには様々な問題がありますし、その問題こそが生きづらさだと僕は思います。何故借金をしないといけないのか、何故親から虐待を受けないといけないのか、なんでこんなに生きづらさって、沢山あるんだろうと。この自殺予防ネットワークに入っている機関はそれぞれ得意な分野が必ずあります。色んな関係機関の得意分野をそれぞれが活かしながらやっているのが安芸の特徴ですし、その中で始まったのが自殺未遂者相談支援事業です。今年も既に3件来ています。年間6件ペースで来ていたのが4月だけで3件というまさにコロナであったり、生きづらさというのが世の中に変に浸透してきているのではないかと思います。これらの困ったことを一部助けているのが農福連携だと僕は認識していて、副産物ではないかと思います。農福連携に関しては皆さん分かっていると思いますが、農業と福祉が手を繋いで、色んな困った人が助かっていくというのが農福連携だと思います。僕が最初に支援した生活困窮者の彼。10年ひきこもっていましたが、この方をなんとか助けないといけないと思って始めたのが農福連携で、そんな事なんか僕はおかまいなしで、本当に困っている子をなんとか助けないといけないということで、安芸市の保健師さんと社協の職員さんと顔を付き合わせて話し合いをしながらやっていったのが農福連携です。この彼を支援してみて、なんでこの子が農福連携で復活していったのかというのを考えた時に、この5つだと思います。コミュニケーションを本当に取れません。僕たち今まで150人くらいの方に対応してきて、共通しているのがほぼコミュニケーションが取れません。コミュニケーションが取れない程度の振れ幅は大きいですが、大なり小なりコミュニケーションが取れなかったり、空気が読めなかったりということがありますが、僕がこの子を支援していく中で思ったのが、やはりコミュニケーションが取れなくても目で分かるような支援をしてあげるとか、ゆっくり言ってあげるとか、一緒に作業をしてあげるということで、この子が復活していったんだと思います。その中でこっちが必死でその子を支援していったら、農家さんは本当に理解しようと努力してくれました。つい最近この最初に僕が送り込んだ農園の方から近所にミョウガの農家さんがお

り、そこが人手不足で困っていて、このハウスに計 8 人くらい連れて行ったんですけれど、いつも人がいてうらやましいと思っていたが、中々声をかけられなかった。5 月の連休明けに声がかかって、ちょっと来てくれ、ミョウガ農家さんに会ってくれと言われて、会いました。そしたらやはり人が欲しいということを言いましたので、じゃあ紹介するね、待っていてねと言った時にここの農家の方が言ったことが僕はすごく嬉しかったです。その子に言ったのが期待するなよということを言いました。最初から全てが上手くいくと思うなよと。やっぱり生きづらさの理解というのもしてあげないとダメだぞと言ってくれたのが、僕もとても嬉しくて、僕もミョウガ農家さんに勉強会にも一緒に参加しませんかと提案したら、是非お願いしますと言ってくれたので、よし、仲間が出来たなと思って、またそこにも横山さんと一緒にやって支援していきたいと思っています。

僕 1 人でやっていた時が 11 農家、たった就労 16 人でした。この 16 人をなんとかするだけで大変でした。そんな所に声がかかったのが、農業振興センターの当時の榎本課長の方から電話があって組織を超えた連携が始まりました。最初は農福連携研究会ではなく、農福連携検討会ということで始まりました。それが農業振興センターと安芸福祉保健所がどんな仕事をしているかというわかり合いの話合いをやりました。これがいいねということで、2 回、3 回とやっていくんですが、2 回目に JA さん、それこそ小松課長が来ていまして、なんで JA さんが居るんだろうなと思ったんで聞いてみたら、人手が居ない。アグリサポートに雇いたいという人がいても働きたい人がいないからなんとか手が組めないかということで、でも僕はこの 16 人を助けるための 11 農家を発掘するのにかなり苦労していたので、これはお互いなんとかなるということで、手を組んでやってきたのが、農福連携の組織を超えた活動になります。言っていたように福祉分野は就労先が無い、農業分野は人手が無いということで手を結びました。平成 29 年 12 月に自立支援協議会の就労支援専門部会をこの図の中にある支援機関を入れて立ち上げました。就労支援専門部会は就労を直接支援する部会で、ここに今 105 名の就労者がいますが、保健所の方で名簿を一覧化して、個人情報になりますので、一旦はみんなで共有して今どういう状況かということを出し合います。で、困っている支援機関があれば、そこにみんなが意見を出すとか、各現場に一緒に行くとかということをやっています。直接就労支援をする所が就労支援専門部会になっていますし、経歴書というまた後で見て貰えたら分かりますが、個人の長所、短所を書いて同意を得て農家さんに渡すということをしています。で、平成 30 年 5 月に安芸市農福連携検討会が農福連携研究会に変わってきます。これは農福連携を拡大をしていく政策を考える所で、サミットであったりという所を考えたりする所なんですが、中でも就労支援専門会と農福連携研究会の両輪で安芸は動いていますが、直接支援しながら、この農福連携研究会で生きづらさの理解というところをテーマに研修会を開催しております。残念ながらコロナのせいで生きづらさの研修会の方の回数が少なくなっていますが、そんな中から安芸市さんが独自で生きづらさの支援、理解促進研修というのをやったりし

ています。今年度もサミットを開催するように7月の半ばから下旬にかけてやるようにしております。講師の方は南国市の南国にしがわ農園さんに来てもらって、全体の組み立てがまだ出来ていませんので、出来上がったら皆さんにも紹介していきたいと思います。

就労支援専門部会で困っていました。人が40人超えてきた時に、定着支援の方が中々出来ない。僕たち支援者がついて一緒に作業をしてというのが出来なくなったので、ここにお願いしました。助けてくださいと。小松課長の方がウチが雇うよということで横山さんを雇ってくれてやったことが定着支援が伸びてきた一つの要因ですし、今度はJAさんが出荷場の人出が足りないということで、今度就労支援部会に声をかけて就労支援部会から逆にJAさんの方に実習に行かせてもらって、そこで一気に5人雇ってもらって人手不足の解消になったと。お互いがお互いを助け合うという活動をしています。こういう感じで、これも平成27年くらいにやったやつですが、農家さんを中心に入れて生きづらさの理解を山崎所長を雇ってもタダなので、何回も雇って勉強会を開催していきました。これが全体の就労支援になっています。（資料を指して）これが5月現在です。今もうちょっと農家さん増えていますし、入れ替えもあります。言っていたように前の違う農福の話の中で農家が別の所に就労して行った人もおりますので、この人数は上下しながら進んで行きますが、この中には農福連携意外でも林福連携であったり水福連携だったりもあります。今日僕が着てきたシャツは林福連携のTシャツで土佐備長炭一で、僕はこのデザインが好きなんで、みんなで作って、何故かいの町さんもどっさり作って二十何着買ってもらって、なんかそうして楽しんでやっています。酪農も農福連携、誰でもいいき連れてきいやみたいな感じで受け入れてくれていますし、先ほど言った土佐備長炭、今日も午前中、地活の香美さんのお仕事体験を利用して一人マッチングを女性の方ですが、してきました。40日使いながらここでもう一人働く人が増えてきたらいいなということでサポステさんの方と一緒にマッチングしてきました。それと水福連携、筋青のりの養殖なんですが、ここも儲けるのが目的じゃないので、障害者就労をしたいのでということで、ひきこもりの彼を、まず農業で元気になって、この2年ひきこもりの人を歳が半分くらい6年くらいひきこもりの子が支援しています。

令和2年になると、一般の農家で働ける人は良いんですけど、働けない人が居て、でも働きたいという気持ちを大事にしていかないといけないという凄く働きたい思いを大切にしたい農家さんが集まってB型事業所を立ち上げています。ここで一般就労で働けない、それでも仕事したい、農業に行きたいという方を受け入れていきました。2年が経って現在登録者51名になっておりまして、105名の中の約半数をこうち絆ファームという所が請け負っています。今5件の農家さんからナスを受け取って袋詰めをします。袋詰めを270円で請け負って、200円を本人に渡し、70円を事業所の方に入れるようにしています。農閑期はオクラの収穫をするようにしています。コロナで炭が売れなくなった時にキャンプで薪が売れるということが分かって、農閑期を利用して薪割りを農福と林福が一緒になっ

てやっている、なんかこういいなぁという取り組みなので、皆さんの方に紹介させて頂きました。安芸は（就労者数が）104 名になっていますが、男性の方が若干多くなってますし、様々な年代、様々な障害の人に対応できていますが、ほとんどが働き盛りの生きづらい方が多いなということが分かりますし、色んな生きづらさに対応出来るということが分かりました。この 3 年間の 105 名の中の人は 3 年間で凄く増えているんです。これは就労支援専門部会、農福連携研究会が出来て、困った支援機関が助け合って、どんどん就労に繋げていったということがこれに現れていると思います。就労機関は様々でみんなが一生懸命繋げています。僕が本当に言いたいのは、この農福連携で色んな生きづらさを抱えた人たちが、JA さんが入ってきたことで凄く助かりましたし、そこでこのひきこもりであったりという方、本当に社会で何も役割を持ててなかった人がそこで仕事を覚えること、働くこと、賃金を貰うことで、やっと自分の役割が出来て、毎日来てくれとか、休むなよ、お前が来なかったら困るからと声かけで社会的役割を持てたことが大きかったと思いますし、居場所なんて作らなくても、そこが居場所にどんどんなっていくんだという事は凄く僕はそれぞれの農家さんで「いいなぁ。」と思いました。僕は本当に人手不足の解消のためにやったんではありません。たまたま人手不足の解消になっただけで、本当に特性にマッチしたと思います。そしてやっぱり組織を超えた連携。これがすごいなと思いました。安芸のこれからの課題と方向性なんですけれど、これだけ 100 何人繋いでもどんどんどんどん出てきます。今日も出てきて、昨日も出てきてという感じで次から次へ出てくるので、本当に僕たちは止まることが出来ない。こういう困った人をいっぱい助けるにはやっぱり理解者を増やしていく、協力者を増やしていくというのが大事なので、色んな勉強会を開いて協力者をこれからも増やしていきたいなと思いますし、これからの活動としては発達障害児の家族とか支援者とも連携して農業を仕事の一つの手段として選んでもらうということも大事なんじゃないかなと思います。特別支援学校との連携もそうです。初めて去年、小松課長と一緒に特別支援学校に行ってどうやったら農業に繋げていけるんだということでナス狩り体験とかをやりました。そこで 1 名の方が 4 月から農福で就労していきましたし、JA 出荷場の方でも一人就労することが出来ましたし、高齢者、農福連携で元気になっていきます。ナスを袋につめてることで、お金を稼いで、ここでの楽しみに使うというのが高齢者の農福連携。これが生きがい作りだと思いますし、去年から僕の庁舎の 2 階の産業振興の課から声がかかりまして、安芸の商店街から衰退しているので、活性化の為の会に入って下さいと、高校生を始め地域の色んな方と話をしていきました。その結果、農福連携を活かしたマルシェを 6 月 26 日に開催して、高校生とかにインスタで発信してもらいながらナスの袋詰めをやったり、炭とガスでどっちがおいしいかというものをやろうとしたり、色んなものを作って販売したりとかということをやろうとしています。後、生きづらさって罪を犯す人たちも生き辛いんですね。相談する人が居ません。だから色んな所の人が困っています。検事さんとかも何回も繰り返す人がいる。何故この人は何

回も罪を繰り返すのか。なんとかしてほしい。ということで、2年ほど前から高知地検との連携は始まりました。今日、田中さんも来ていますが、NHKの記者さんも来て僕たちの活動を見て貰いました。そんな中で公文さんお世話になりましたと書いていますが、弁護士さんも農福に可能性を見いだしてくれました。逮捕されて弁護に行ってもしゃべりません。だから一緒に接見にいって裁判に出て、この方を農福で救って欲しいということで、僕は裁判に初めて証人として出ました。でも、練習はダメ出し、ダメ出しだったんですけれど、一生懸命練習して僕は彼を弁護して、今2年目。就労が進んでいますし、この間のクレプトマニアの方が出てきて、その人の裁判にも出させて頂きました。その方も無事執行猶予もらって、とある事業所で元気に働いております。ということで、生きづらさということは様々なんですけれど、その様々な生きづらさに対応出来る一つの手段が農福連携だと思います。安芸はこういう農福連携ケアシステムという、僕が勝手に作ったんですけれど、こういう色んな協力者を得て色んな支援をして行ったら色んな方が幸せになっていくんじゃないかなと思います。僕からは以上です。ありがとうございました。

～省略～

議長

ありがとうございました。農福連携の中で、自殺対策から始められたというお話を頂きましたけれど、農福連携という形で取り組みを着実に進めてきている安芸地域の取り組みというのをご説明頂きました。安芸での取り組みというのは国の方からも評価をいただいておりまして、やはりそこは農業と福祉の連携をして、しかも生きづらさを抱えている人であったり、障害者の方に対して寄り添って取り組んでいるという風な所で一定の成果を上げてきているんじゃないかなという所でございますし、共生社会の取り組みという観点からも大変参考になる事例だったなと思っている所でございます。で、こういう風な安芸の取り組みなんかも、参考にしながら県内における農福連携の取り組みを進めたいと思っているんですが、今日は各地域のプラットフォームの方にお越し頂いているので、今の説明に対する質問、ご意見でもかまいませんし、現在プラットフォームで今取り組まれている中で、少しこういった事が課題になっているよということでもかまいません。今日おいで頂いている方からお話を頂きたいと思っているので、どうぞよろしくお願いします。

そうしましたらさっき公文主幹のお話にもありました、いの町のプラットフォームの方からご意見、今の説明に対するご質問でもかまいませんし、今の取り組みについてもかまいません。お話頂けませんでしょうか。

いの町健康福祉課

ありがとうございました。いの町の健康福祉課の渋谷と申します。よろしくお願いします。いの町では、先ほど公文さんからお話がありました安芸市さんの方に応援して頂いて、少し農福連携の取り組みをスタートさせている所です。安芸市さんの方では自殺対策から始まったというお話がありましたが、いの町では長くひきこもり支援の事業に力を入れておりまして、その先にいわゆるその方たちが一歩前に踏み出せるような居場所という所で農福連携が有効ではないかと思います。そういった中で沢山そういった方が居るという話をしたら小松さんの方からいの町の方へ時々お越し頂いて、そしたら安芸市さんの方へ繋いでくださったりしました。そんな中で安芸市さんの連携命という話を小松さんがよくされますが、本気度と連携というのが凄く大事だなと思っておりまして、やはり公文さんの沢山の方がどんどん集まっていく、それを公文さんが持っているスキルとか元々お持ちの物はあるんですけれど、中々公文さんが見つけてくるのが上手で、どういった感性から沢山の方に声をかけて、その方は決して間違っていないというか、公文さんの取組で広がっていっていると思いますが、いの町としては安芸市さんのこうち絆ファームさんがいの町で参入してくださるような予定がありまして、そういった力を借りながら、ハウスと一回行った所をいの町に出来て、そこから農家さんへのご理解を口コミでそういった所で働いている方に対するご理解を少しずつ広げていって、そういう農家さんに少しでも来て頂けないかというような形で広まっていったら、いいなと思って、今、連携が本当に大事だと思いますので、安芸市さんを見習って今、庁内の産業経済課と JA さんとか関係者の方に勉強会などに一緒に参加して頂いて、少しずつ連携を進めているところですので、少しずつ進めていきたいなと思います。

議長

そしたら順次お話を伺っていきたいなと思うんですけれど、そしたら南国市のプラットフォームの方はいかがでしょうか。

南国市福祉事務所

南国市の原と申します。私も今年度から農福の担当させて頂くことになりまして、またよく分からないまま参加させて頂いておりますが、凄く参考になるお話を聞かせて頂きまして、南国市の障害のある方だったり、生きづらさを抱えている方などが農家さんで収穫などの実施をしていくというのを傾向としている所なんですが、今年度がまだ調整が上手く行っておらず、来年度の実施に向けてやっている所で、今年も冬ごろに講演会などをし

ていく予定となっております。さっきお話頂いたことも参考にして行けたらと思いますので、よろしくお願いします。

議長

ありがとうございました。香南市さんはいかがでしょうか。

香南市福祉事務所

香南市福祉事務所の松田と申します。本日はありがとうございました。香南市の方で令和４年２月に研究会を立ち上げた所でして、福祉部門と農業、水産課が主になって話合いを始めたところです。福祉部門としてはひきこもりの実態把握、件数であったりの把握に取りかかったところです。農林部局としては農家さんが農福連携を知ってもらう、理解してもらうためのセミナーを開催できればと考えているところです。

議長

ありがとうございました。順番がぐちゃぐちゃで申し訳ないんですが、高知市さんからご意見いただけないでしょうか。

高知市福祉事務所

恥ずかしながら４月に着任したばかりでして、高知市農福連携研究会という名前がついているのも初めて知った次第でございますが、本当に安芸市さんの取り組み、素晴らしいなと思いながら拝見させていただきました。特に高知市では障害者の方の農福連携ということで最初の高知県が作ってくださった資料のこれまでの取り組み実績の数字にもありますように、施設外就労ということで作業所の方が農家の方に出向いて農作業されると。そういった面では取り組みというのが進んでおりますが、一般就労は数字を見てびっくりしたのですが、これからの課題です。一方、最後にご説明いただきました地域共生社会の取り組みという面では、まさに高知市でも進んで取り組んでいると本当は言いたい所なんですが、ひきこもりの方の把握であったりとか、ヤングケアラーであるとか、ダブルケアの問題など、人口が多い分、潜在的に発見されていない問題が沢山からんでいます。ご指摘の通り、それまで相当属人的にとあるスーパー職員がなんとか対応していたという所が限界に来ている。それと寄り添うだけのマンパワーも無い中でシステムチックに皆さんが一定レベルに対応出来る、負担を軽減していかないと持たないんだという危機感は持ってい

ます。一方でどうやってそういう方々を派遣して行くかというのは我々が探していくというよりも声を出して頂くという部分に着目しておりまして、2 年程前から続いております、相談窓口の高知市の薬局さんであるとか社会福祉法人さんを中心にほおっちょけん相談窓口というのを開設して、気軽にちょっとした相談でもいいから、まず話してくださいというような場を広めていく取り組みを始めた所です。それと同時に職員の方も対応出来る資質というのを上げていくということで、重層的支援体制整備の一環で今年度は福祉関係の職員にも力をつけていく内部研修に取り組み始めた所です。まだまだこれからという所でございますので、皆様のお知恵を頂きながら進めていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました

議長

順番がまたバラバラで申し訳ないですが、須崎市さんはいかがでしょうか。

須崎市福祉事務所

須崎市福祉事務所の開澤と申します。よろしくお願いします。私も昨年から現在の福祉事務所の方の担当になっているんですが、昨年から農福連携といった所で実際の個別のマッチング等も考えてきた中で須崎市の方もミョウガ、シシトウ等色々農業盛んな地域でございますので、実際に昨年マッチング成立した所もありまして、今後もまだまだ農福連携という所、色んな可能性がある所と思っているんですが、各地域のプラットフォームという中で須崎市の方は障害者自立支援協議会の就労支援部会という位置づけをしているんですが、各地域とも農福連携に特化した研究会なり協議会を立ち上げられているという所で須崎市の方もより柔軟にスピーディーに色々対応できないかという所を目指して農福連携の分科会的なものを新たに立ち上げて、分科会の中でこの協議をスピーディーに行っていくということを考えております。安芸市さんの発表の中で参考にさせていただきたい事がありまして、直接この農福連携という所に･･･少しずれるかも知れませんが、須崎市で実際に表面化してきている問題で実際の農家さん、今ご両親が農業をやられてて、そこのご両親の息子さんなりが農業を継ごうとした時に、その息子さんが障害のある方だった場合に中々ご両親の農業を継ぐのが難しいという問題が出てきておりまして、潜在的にそういうケースというのが他にもあるんじゃないかと考えているんですけど、安芸市さんの発表の中で JA さんの方が就労サポーターさんを雇用して障害者の就労定着強化を進めておられるというのが、この辺りが参考にさせていただけるケースになるんじゃないかと思っておりまして、また後日ご意見頂けたらと思っております。

議長

せっかくなので、公文さん、一言何かあればお話いただけたらと思います。

安芸福祉保健所　公文　主幹

安芸の方でも実際ありました。親御さんがナス農家をしていましたが、どうしても息子さんがひきこもりで出てきませんでした。その方 20 年引きこもって喋ることすら忘れているような方で、とても農家のナスの作業を全て出来るような男の子ではなくて、さらに急にお父さんが急死して、さぁ困ったという時にナスをやることも出来ない、高齢のお母さんがいるんですけれど、年金をほとんどかけていなくて困っている。ダブルでひきこもりの息子さんと生活困窮のお母さんが居て、そこで僕がお願いしたのが JA さん、小松課長にお願いして、足の問題ですよね。安芸の方でも離れている所なので、農家さんがそこに居なくて、助けれてない状態やったんで、小松課長にお願いして近くの JA の出荷場を紹介して貰って、そこへ農家では無いですけど、出荷場につながって、皆で支援して、僕も行ったし、一緒に働いている保健師にも行ってもらったし、お仕事体験の人にも行って貰ったし、様々な人に支援してもらって、20 年ひきこもりの彼がそこの出荷場で定着をして、正社員になって農業では無いですが、農業に近い仕事に就けたので JA さんとか頼っていったら、農家にはなれないけど、違う何かに、中ポツとかそれこそ就労サポーターや岩﨑さんとかにお願いしたらいけるんじゃないかなと思います。

議長

それでは次に四万十町さんからご意見いただけたらと思います。

高南農業改良普及所

四万十町農福連携推進協議会ということで、県の農業改良普及所が協議会の事務局ということで、務めさせてもらっております、矢野と申します。よろしくお願いします。今日は先進的なからの取組事例を聞く事が出来て、自分もプラットホームで情報共有したいなと思っています。四万十町農福連携協議会では令和元年 8 月に立ち上げたということで、まだ年数も浅いですが、今日公文さんもおっしゃったように、色んな機関が参画することで、それぞれの力を連携していくということがポイントだと感じます。それとこれまで四万十町のプラットフォームで取り組んで来ましたのは、障害者と農家の連携、橋渡しをする部分で、農と福お互い理解し合うという事が伝わって、大事じゃないかなということ

で、令和３年度においては福祉の事業所の職員の方が農業の現場、例えばニラ、ネギ、水耕せり、そういった野菜のそぐり作業の実際の現場に体験形式の形で実習しておりましたし、そういった事でお互いの事を理解し合うという事が有効かなということで取り組んでいます。

議長

ありがとうございます。続いて幡多地域のプラットフォームの方お願いします。

幡多農業振興センター

幡多地域では農協の出荷場でニラの出荷調整作業を事業所の方に来て頂いて、農福連携で取り組んで頂いたり、個別の農家さんで事業所の方に作業お願いしてやっているというような事例は以前から少しあったんですが、中々そこを関係機関が入ってマッチング支援をしていくという所が中々出来ていなかったので、昨年の６月にプラットフォームを立ち上げさせて頂きまして、各機関がやっている事の情報共有をやったり、今度６月９日には、実際にレモンの農家さんの方で除草作業を事業所さんにお願いしている方がいらっしゃったりするので、そちらの作業、現場を実際に福祉関係の方にも農家さんにも見て頂いて、意見交換をしていこうという、相互理解を深めるようなことに取り組ませて頂いております。

議長

ありがとうございました。室戸市さんお願いします。

室戸市保険介護課

私も４月から担当になりまして、今日は勉強も兼ねて出席をさせて頂いています。室戸市の方も就労支援部会を立ち上げまして、まだ始まったばかりという状況でして、どの様に就労支援に繋げていけばいいかという所を検討中であります。室戸市としては、まず関係機関の連携であれば情報共有が課題かなと考えております。今日のお話とか取り組みを参考にさせて頂きまして、また今年度協議の方を進めていきたいと考えております。

議長

ありがとうございました。今日はJA高知県さん、JA高知市さんも来て頂いていますので、農業の立場からお話を聞きたいと思います。

JA高知県

JA高知県は集出荷場等で色々な障害者の方や困っている方、B型事業所さんに作業委託を行って、農業分野で手助けをしてもらっている状況です。実際、色んな所にマッチングして助けて貰っているんですけれど、課題といたしましては、幡多管内の方でニラのそぐりで事業所さんが関わってくださっているんですけれども、法改正か分かりませんけれど、施設外就労の加算ポイントが無くなったということで4事業所さんから1事業所さんしかお手伝いして頂けていない状況がありまして、色んな背景で法律等変わっているとは思いますが、施設外就労を福祉の方もやりずらい状況になっているのかなという背景がうかがい知れて、JAとしても作業委託の件で課題になっています。その他にも色んな市とか町とか色んな方から農家さん側でお仕事無いですか？という相談を多々受けるんですが、農業分野でどうしても公共交通機関が使える場所に農地がありませんので、交通機関の問題で中々マッチングができずに、ご相談されても上手く農家さんと出会うことができずに、相談の時点の段階でだめになっているケースがあるのが現状なので、どうしても障害のある方はバイク等無く自転車でしか通えない状況なので、そのような所で何か支援策があればもっとマッチングが広がるのではないかなと考えています。

JA高知市

私の担当はJA高知市の無料職業紹介所で職業紹介をしておりまして、JAでの農福連携も無料職業紹介所が担当の分野の一つになっています。私どもは、高知市農福連携研究会にも参加しておりまして、日常の農福の活動は農福連携研究会の方で中心に相談してもらいながら、やっております。研究会の方ですが、高知農業改良普及所さんの方で事務局持って頂いて、活動をやって、年に何回か会合ということもあったんですけれど、コロナの関係もありまして中々難しくなっていますが、これまで研究会を立ち上げてから何年か後に色んな事例もありまして、農家さん、花卉農家さん、お花の農家さんの施設園芸の方への就労体験であるとか色んな出荷場の見学会とかありました。私共の三里出荷場の方で事業所さんの方に来て頂いて箱づくりとかしております。ただですね、まだまだ広がりがこれからでして、課題としてなんですが、まずやはりまだ農家からの農福連携の理解が中々進んでいなくて、どうしても高知市はじめ、県下の農家さん、労働力不足というのは深刻

なんですけれど、まずは働いてもらいたい、働き手という視点が先に立ちますので、どうしてもマッチングしてみても、一般の人と同じ作業を求められてついていけないなんていう事例もあったりします。逆に高知市で先進的に取り組まれている農家さんがその辺の方も勉強して頂いて、有名な農家さんなんですけれど、直接作業所に来て頂いたり、直接就労して頂くんですけれど、農家さん自身がそういう方々への対応や連携をして下さっているんですけれど、そういったことが課題となっております。後はやはりまだまだ連携が取れていないということがあります。色んな相談が高知市は人口集中地域になりますので、私どもの方に支援を求めてくるというか、就労支援のご相談を頂くんですけれど、とりあえず窓口でお話をして、それから各行政に繋いでみたり、相談してみたりというようなことがあるんですけれど、その辺が中々スムーズに行っていないということがあります。単純に私自身の知識も不足していますので、そういう所でこれからやっていきたいと思います。最後に一応この３月にこういうパンフレットを作りました。高知市農福連携研究会で。簡単なスタートアップガイドということで、普及所さんの方で編集していただいて、これを活用して、まずは農協の組合さん、あるいは農協職員の皆さんにも紹介して広げていきたいなと思っています。これで終わります。

議長

ありがとうございました。時間が大分押していますが、一言でいいのでお話を頂きたいです。高知県農業会議さんお願いします。

高知県農業会議

高知県農業会議の下元と申します。今日はありがとうございました。私の方はやってる仕事としましては、環境農業推進課の方から委託を受けまして、障害者の方々が農家の方々の体験をするということ。それに対する助成をさせて頂いています。もう一つは実際に障害者の方から就労体験をすると。それに対する助成をしております。この二つとも当然農家の方がどうしても作業が発生しますので、その方々に対して助成をするようにしていますので、また障害保健支援課の方から情報もいっているかと思いますが、是非活用して頂けたらと思います。この４月に実は１件だけ実績がありまして、４月の中頃から５月の中頃まで一箇所で就労体験があったんですけれど、農家の方に言われたのが勉強会に出たいと。すごく熱心な方でして、もっと色々知りたい。障害のことが分からないから、ついつい健常者と思ってやってしまう。ような所がある感じでした。是非、勉強会などがあれば行かせて頂きたいというご意見を貰っていますので、研修会があれば、参加させて頂きたいと。実際農家の方々もそういう想いがある方がいらっしゃる。そこら辺はJAの方

とか振興センターの人たちに声かけをしてもらって、一人でも障害者の方のことが分かるようにしたいと思っています。以上です。

議長

ありがとうございました。それでは高知市社協さんお願いします。

高知市社会福祉協議会

今日は参加させて頂いてありがとうございます。私も４月から担当となりまして、まだ覚えることが沢山ある中、このような会に参加することが出来たことが、とても良かったと思います。中々、農福連携という言葉が今、行えていないところがありますので、また今日をきっかけにご協力できたらと思いますので、また皆さんよろしくお願いします。

議長

ありがとうございます。ポラリスさんお願いします。

障害者就業・生活支援センター　ポラリス

今日の農福連携支援調整会議の発表された方の利用されているコーディネーターとか就労定着サポーターとか、共通して言えるのは、やはり農家さん側と就労者側の取り組みというのを理解して、関係機関のネットワークの構築とコミュニケーションを取るということが一番重要なのかなと今回認識しました。定着サポーターの公文さんからもお話ありましたが、場所を変えて、人を変えて定着しやすくなったとか、人と作業と環境をしっかりニーズ把握する力というのを我々支援者の大事な支援の力を出すというのを改めて認識しました。

議長

最後に地活香美さんお願いします。

地域活動支援センター

私の方では県の方から委託事業として受けてやらせてもらっている事業についてお話さ

せて頂きたいと思います。最初、県の岩﨑さんから説明ありました、資料の中でですね８ページ目にあります一般就労の就労体験拠点設置事業（障害保健支援課）の下にある同じ名前で就労体験拠点設置事業（地域福祉政策課)、２つの事業の委託を受けてやらせて頂いています。どう違うかは注釈を書いて頂いていますが、障害保健支援課さんの方は主に障害のある方ということで、4、5 年くらいやらせて頂いています。地域福祉政策課さんの方は去年の 12 月から受けさせてやらせて頂いています。主にひきこもりのある方でも、障害のある人でも可能な人というような方でスタートしております。この説明聞いて、皆さん、じゃあどっちがどっちをという話になってくると思いますが、結局、障害がある方でひきこもっている方もいるし、障害が無くてひきこもっている方もいるし、障害者でもひきこもっていない方もいるしということで、さび分けが難しいと思いますが、農家さんが受けて下さる方がいれば対面したいという方がいれば、ご相談して頂ければ、ソーシャルワーカーそっちに当たりますねということで振り分けさせて頂きますので、ご連絡頂ければと思います。事業の方としては受けてくださった農家さんの方に謝金として一日 4,500 円お支払いできます。実習生を体験される方には一日交通費 500 円をお支払い出来るようになっています。ただ、日数には限りがありますので、お問い合わせ頂ければと思います。もちろん受け入れ先の農家さんに安心して受け入れて頂くように保険もこちらでかけさせて頂きますので、関係者の方や農家さんの方には一切、費用面で負担はかからないという事業にはなっています。そういう形で問い合わせを頂ければ対応出来ると思います。いかんせんウチが香美市の土佐山田の方なので、中々高知県は広いのであちこちから言われても、すぐに行けるかなという所はありますが、行ける範囲で融通を付けさせて頂きたいと思っているのでよろしくお願いします。

以上